

まちかど アルバム



鳥取駅で「ふるさと」を歌う

JR 鳥取駅

5月10日(土)、鳥取市が生んだ偉大な作曲家、岡野貞一あかのていいち(1878-1941)の生誕130年を記念したミニコンサートが、JR鳥取駅で開かれました。コンサートには、鳥取市少年少女合唱団やフォークソンググループ、わらべ館の童謡唱歌推進員が出演。「春が来た」、「ふるさと」などの名曲を披露しました。観客は、澄んだ歌声や息の合った演奏に、時折、歌詞を口ずさんだりしていました。

どれにしようかな

鹿野町

青空が広がった4月27日(日)、「春の鹿野ええもん市」が鹿野そば道場横の特設会場で開催されました。会場には、新鮮な野菜や山菜、農産加工品などの販売コーナーに加え、地鶏あいその焼き鳥やジェラートなどの飲食コーナーも出店。藍染め製品のコーナーでは、熱心に品定めをする客の姿が見られるなど、訪れたみなさんは鹿野の「ええもん」を満喫していました。



ビワの袋かけ

青谷町きぬみ絹見

青谷町絹見地区は、県内有数のビワの産地です。4月23日(水)、青谷小学校の3年生がビワの袋かけを体験。地元農家の手ほどきを受けながら、2割ほどに育った実を2、3個選んで、袋をかけていきました。中には、風で袋を飛ばしてしまう児童もいましたが、おいしいビワがたくさんできることを願いながら、みんなで頑張りました。6月下旬の収穫が今から楽しみです。

砂のレリーフが登場

サンドパルとっとり

鳥取砂丘情報館「サンドパルとっとり」に、「大黒さまと白うさぎ」をテーマにした砂のレリーフが登場しました。これは、鳥取砂丘ライオンズクラブ(村山洋一むらやまよういち会長)が結成20周年の記念として「ふくべ砂像研究会」に制作を依頼、同館に寄贈したものです。5月10(土)の贈呈式では、村山会長から竹内市長に目録が贈呈されました。現在開催中の「砂の美術館」と合わせて、ぜひ、ご覧ください。





無病息災と五穀豊穡を祈願

ひめじ
気高町姫路神社

気高町八束水^{やつかみ}の姫路神社に古くから伝わる「百手^{ももて}の神事」が4月27日(日)、古式にのっとり、厳かに行われました。県の無形民俗文化財に指定されているこの行事^{おきな}。翁の面をかぶった神官が、弓を射て今年の無病息災と五穀豊穡を祈るとともに、的に当たった矢の状態^{こと}で吉凶を占うというもの。昔は全国各地で行われていましたが、現在、鳥取県では姫路神社に残るのみとなっています。

秋の収穫が楽しみ

あもろ
福部町海士

5月10日(土)、福部小学校の児童とその保護者らが、サツマイモの苗の植え付けを行いました。これは、地域で児童を育てる「チャレンジスクール」事業の農業体験活動として行われたもので、福部町海士の畑約1.5畝に、1時間半かけて300本の苗を植えました。畑の管理は、地元のボランティアにお願いしていますが、夏休みには子どもたちも除草作業を行います。そして10月下旬には、いよいよ収穫です。



菜の花畑でコンサート

河原町中井

河原町中井で4月26日(土)、「菜の花コンサート」が行われました。これは、菜の花畑^{いなきふみひこ}の復活や里山の再生に取り組んでいる「いなばの里山を守る会」(壹岐文彦代表)が企画したもので、集まった市民約80人が、見事に咲いた菜の花畑の中で、「春の小川」などを合唱しました。菜の花は、この後食用油として精製・販売され、そして使用済みの廃油はトラクターの燃料になるそうです。

気持ちよさそうに泳ぐ鯉のぼり

用瀬町瀬戸川

5月1日(木)から5日(月)まで、色鮮やかな鯉のぼり約40匹が、用瀬町内を流れる瀬戸川を元気よく泳ぎました。用瀬町上方往来街並活用推進会が、古い町並みを観光資源として活用しようと、地域住民と協力して2年前から始めました。期間中は、ぼかぼかとした陽気が続き、訪れた家族連れや観光客が、清流の中で泳ぐ鯉のぼりを珍しそうに見ていました。



優雅なひとときを楽しむ

因幡万葉歴史館

「新緑の万葉茶席」が5月3日(土)、国府町町屋の因幡万葉歴史館で開かれました。今年で10回目のこの催し。新緑の美しい「万葉と神話の庭」では、鮮やかな万葉衣装に身を包んだボランティアグループ「吉事^{よごと}の会」のみなさんが、来場者に抹茶をふるまいました。この日は、箏^{こと}と尺八の演奏会も行われるなど、会場は優雅な雰囲気に包まれました。